

サトイモ全期マルチ栽培における「生分解性マルチ」の利用

農林水産研究所

◆全期マルチ栽培における「生分解性マルチ」の必要性

県内ではサトイモの全期マルチ栽培が定着しており、生産者のほとんどが収穫時に回収が必要なポリマルチを使用しています。しかし、自然に分解される「生分解性マルチ」の利用により、マルチの除去・処分に係る労力や費用を削減できます。



ポリマルチ



マルチ除去作業

省力化・プラスチック廃棄物の削減効果



生分解性マルチ



耕うんによるすき込み

◆生分解性マルチの利用による収量への影響

表 1株当たりの収量

試験区	親芋重 (g)	子芋		孫芋		子・孫 芋重(g)	秀品芋		可販芋		筈芋数 (個)
		数 (個)	重量 (g)	数 (個)	重量 (g)		数 (個)	重量 (g)	数 (個)	重量 (g)	
生分解A 土入れ有	473	8.7	605	19.8	1,266	1,871	4.4	410	22.6	1,523	4.1
生分解A 土入れ無	440*	8.3	509*	17.5	936	1,444*	3.7	285	19.3	1,166	5.6
生分解B 土入れ有	527	7.9	610	20.9	1,290	1,900	6.1	449	22.9	1,504	4.3
生分解B 土入れ無	563	8.1	570	21.3	1,277	1,847	5.9	457	24.0	1,514	3.7
ポリマルチ 土入れ有	632	8.1	717	20.1	1,417	2,134	6.3	489	23.2	1,698	3.0

注) 2025年4月6日定植、11月11日調査、5株×3カ所調査

表中の*は、Dunnet法による検定の結果、「ポリマ・土有」に比べ5%水準で有意差があることを示す

生分解性マルチの利用による生育への影響はなく、土入れの有無による収量への影響が大きい